

SCORE大学推進型 拠点都市環境整備型 採択プラットフォーム紹介

(2021年10月時点)

GAP NEXTプラットフォーム

2020年度開始～2021年度終了予定

参画機関

主幹機関:九州大学、共同機関:九州産業大学、久留米大学、日本経済大学、福岡大学、福岡工業大学

目指すスタートアップ・エコシステム

アジアのリーダー都市として成長都市のロールモデルとなることを目指し、2025年度末までに10億円企業100社以上かつユニコーン企業5社以上の創出を目指す。

福岡流エコシステムの確立

-達成する目標-

- ① スタートアップの創出
スタートアップ数 倍増以上
- ② スタートアップの成長
ユニコーン 5社以上創出
- ③ グローバルスタートアップ



(1) 起業活動支援プログラムの運営

- 研究開発課題: 10件/年度を採択予定。
- 選考は地元VCを中心とした有識者で構成した委員により選考を実施。GAPファンド終了後の支援は、外部資金や連携企業を紹介し、企業支援を継続的に推進する。
- 各プロジェクトにプレCxO人材※を配置し、事業化のPOC※取得を強化する。
※プレCxO人材: Chief x Officer(経営の核となるような人物を指しています)
※POC: Proof of Concept(概念実証)

(2) 起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材の育成

- Faculty Development: 15人を目標に、バブソン大学が提供するFDプログラムに参加することで、起業家育成プログラムを運営する指導者を育成している。受講した指導者候補は、今後、各所属機関の指導人材として活動を予定している。
- Mentor Development: 域内の各機関のメンター人材プールを機関を越えて相互活用するための支援人材グループを整備する。

(3) 起業環境の整備

- 拠点都市の中心である「Fukuoka Growth Next (FGN)」と拠点大学を接続させるため、オンライン設備を中心に整備する。
- 各拠点間で、設備の相互利用を促進することで、不足するリソースをそれぞれ補い合い起業準備環境の充実を図る。



(4) プラットフォーム内外のエコシステムの形成

- 福岡スタートアップ・コンソーシアムのビジョンを踏まえ、福岡地域戦略推進協議会のボーディングメンバーを中心に産学官の連携を推進する。
- 拠点都市がMoU※を締結している国や地域といった海外ネットワークを活用し、海外アクセラレーションプログラムやマッチングプログラム等を活用する。

※MoU: Memorandum of Understanding(了解覚書)

活動成果

- 起業活動支援プログラム(ギャップファンド)において、研究開発課題10件(応募総数21件)を採択し、事業化検証資金を助成。プレCxO人材の募集・配置が完了し、各PJの事業化活動を加速化させている。
- Faculty Developmentでは、第1回FDプログラムを8月に開催し、拠点都市内や北九州コンソーシアム内の各教育機関から22名受講いただき、指導者候補の育成を実施できた。